



赤ちゃん協議会 第2回病院長・大学WG

(周産期医療の提供体制を検討する協議会)

令和4年9月29日
石川県健康福祉部



本日の議事内容(病院長・大学WG)

1. 部長挨拶

2. 議題

- (1) 第1回 病院長・大学WGの概要
- (2) 周産期医療に関するデータ整備について
- (3) 発表①
- (4) 発表②
- (5) 発表③
- (6) 意見交換

(1) 第1回病院長・大学WGの概要

第1回病院長・大学WGにおける主な意見(R4.8.18)

【分娩取扱医療機関の在り方について】

- ・県内分娩の多くを担う開業医に対し、周産期母子医療センターや病院によるバックアップ体制を確保することが重要である。
- ・「能登で分娩に問題が生じた際、金沢の三次救急に運ぶしか選択肢がない。能登に二次的な病院があればよいのではないか」との意見があった。
- ・「石川中央、南加賀は、開業医と病院の連携は概ねうまくいっている」との意見があった。
- ・現状、新生児科医が不足しており、安全安心な周産期医療を提供するには、産科医と新生児科医をセットで考える必要がある。

【医師が働きやすい勤務環境整備、人員体制の在り方について】

- ・各病院において女性医師が働きやすい環境整備が重要であり、進んでいる病院の取組を県内病院に共有するとよい。
- ・「女性医師からはシッター費用補助の希望が多いが、病院で補助するのは厳しい面があり、公的補助があると助かる」との意見があった。
- ・産科医療には助産師の確保も重要であり、県内で養成した助産師が県内に定着することが大切である。

【産科医の確保について】

- ・「能登北部においても、できる限り地元出産のニーズに応えたく、大学からの支援(医師派遣)をお願いしたい」との要望があった。
- ・「能登北部の周産期医療確保に向け、大学は医師を派遣するので、県には、寄附講座の設置により、財政支援をお願いしたい」との要望があった。

(2) 周産期医療に関するデータ整備について

周産期医療に関するデータの整備について

○これまでのワーキンググループにおいて、病院間の連携や協力体制について議論をしていくには、病院間の紹介や搬送などに関する実態の把握が必要とのご指摘をいただいた。

○そこで、産科医ワーキンググループの上野座長からご指導いただき、県では、今後、次のページに示すようなデータを整備する予定。

○このデータ整備にあたって、現在、各分娩取扱機関に調査を依頼している。

本日ご出席の病院長の皆様におかれては、趣旨をご理解いただき、回答へのご協力を重ねてお願いしたい。

期 間：令和4年9月20日～10月7日

対 象：分娩を取り扱う病院・診療所・助産所

項 目：帝王切開件数（予定／緊急／超緊急）、ハイリスク妊娠数、搬送・紹介の状況

○結果については、今後の赤ちゃん協議会で、病院間の連携や協力、役割分担等に関する議論に活用したい。

(非公開資料)

(非公開資料)

【参考資料】県内における助産師就業状況一覧①（業務従事者届調）

（非公開資料）

【参考資料】県内における助産師就業状況一覧②（業務従事者届調）

（非公開資料）